

(資料1) 薬剤師届出票を用いた薬剤師の職種の経年調査

【目的・方法】 薬剤師法第9条により、薬剤師は住所、性別、生年月日、登録年月日や業務の種別などを記入した薬剤師届出票を2年に1回届け出る。昨年度は、届出票情報の利用について厚生労働大臣の承諾を得て、2004年から2020年までの薬剤師届出票データの提供を受け、薬剤師登録番号を指標に薬剤師が従事する職種の経年的な変遷を調査した。

今年度は、同データを用い、薬局から病院に転職する薬剤師の経年的変遷を男女別に調査した。また、2004年および2012年に経験年数2年未満だった薬剤師について、対象の薬剤師が従事した業種を追跡調査した。

【結果】

(図1) 他業種から病院に転職した薬剤師の前職は薬局薬剤師が最も多く、その傾向は調査期間において継続していた。

(図2) 病院に転職する薬局薬剤師の経験年数ごとの人数は、2010年以前では経験年数0～1年をピークとしていた。

(図3) 病院に転職する薬局薬剤師の経験年数ごとの人数は、2012年以降では、2010年以前と比べて経験年数0～1年での転職者数が減少していた。また、経験年数10年以降では特に女性の転職者数が2つ目のピークを示す傾向が顕著であった。

(図4～7) 免許取得初期に薬局に勤務していた薬剤師の一部は転職しており、転職先は病院が最も多かった。初期に病院に勤務していた薬剤師は経年的に他業種に転職する人数が増加しており、転職先として薬局が最も多かった。病院薬剤師から薬局薬剤師に転職する人数は、薬局薬剤師から病院薬剤師に転職する人数よりも多かった。免許取得初期にその他の業種に従事していた薬剤師においても薬局および病院に転職する人数が経年的に増加しており、病院薬剤師よりも薬局薬剤師になる人数の方が多かった。追跡期間において無職になる人数は、男性よりも女性の方が多かった。これらの傾向は、2004年に経験年数2年未満の集団と2012年に経験年数2年未満の集団の両方で同様であった。

(図8～9) 男女とも、経験年数36年以降に無職が多くなっていた。また女性では、経験年数10～25年の時期に無職が増加していた。経験年数10～19年の無職の約1/3は2年後に無職でなくなっており、無職からの就職先は薬局が多かった。

【考察】

病院に転職する薬剤師は薬局薬剤師が最も多く、若い世代が多かった。キャリアの途中で無職になる薬剤師は、男性よりも女性の方が多く、男性薬剤師よりも女性薬剤師の方がライフイベントの影響を受けていることが示唆された。キャリア途中で無職となった女性薬剤師の一定数は、その後薬局薬剤師あるいは病院薬剤師になっていることから、一時的に無職となっている薬剤師の活用を検討することが重要と考えられる。

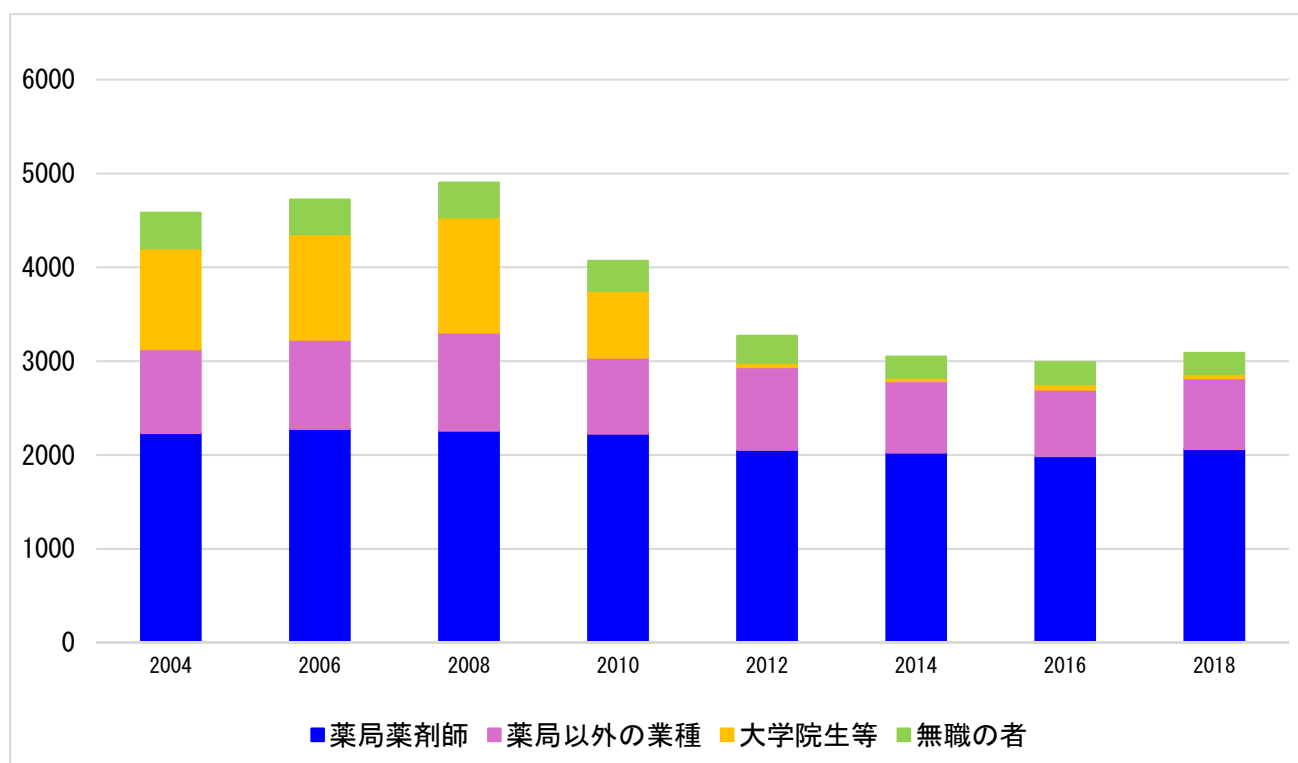


図 1. 病院に転職した薬剤師が転職前に従事していた業種

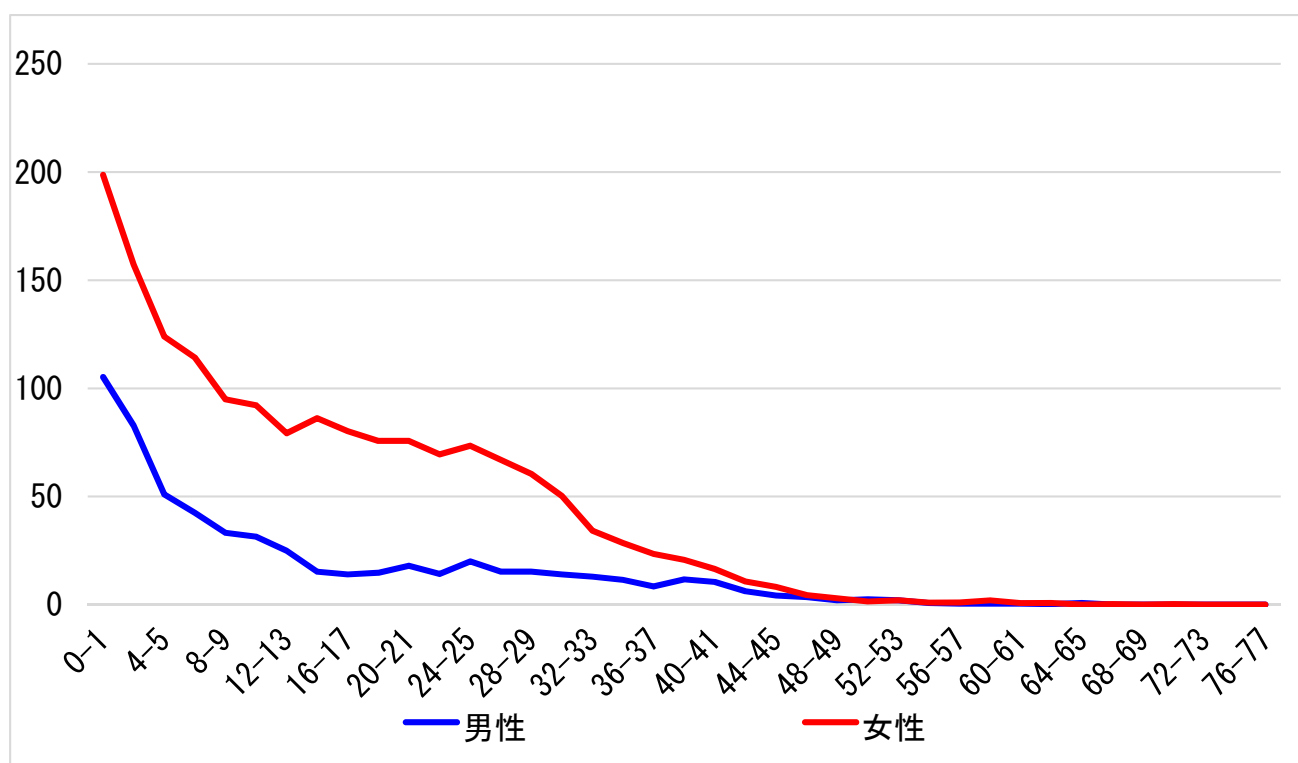


図 2. 薬局薬剤師から病院薬剤師に転職したときの経験年数と平均人数（2010 年以前）

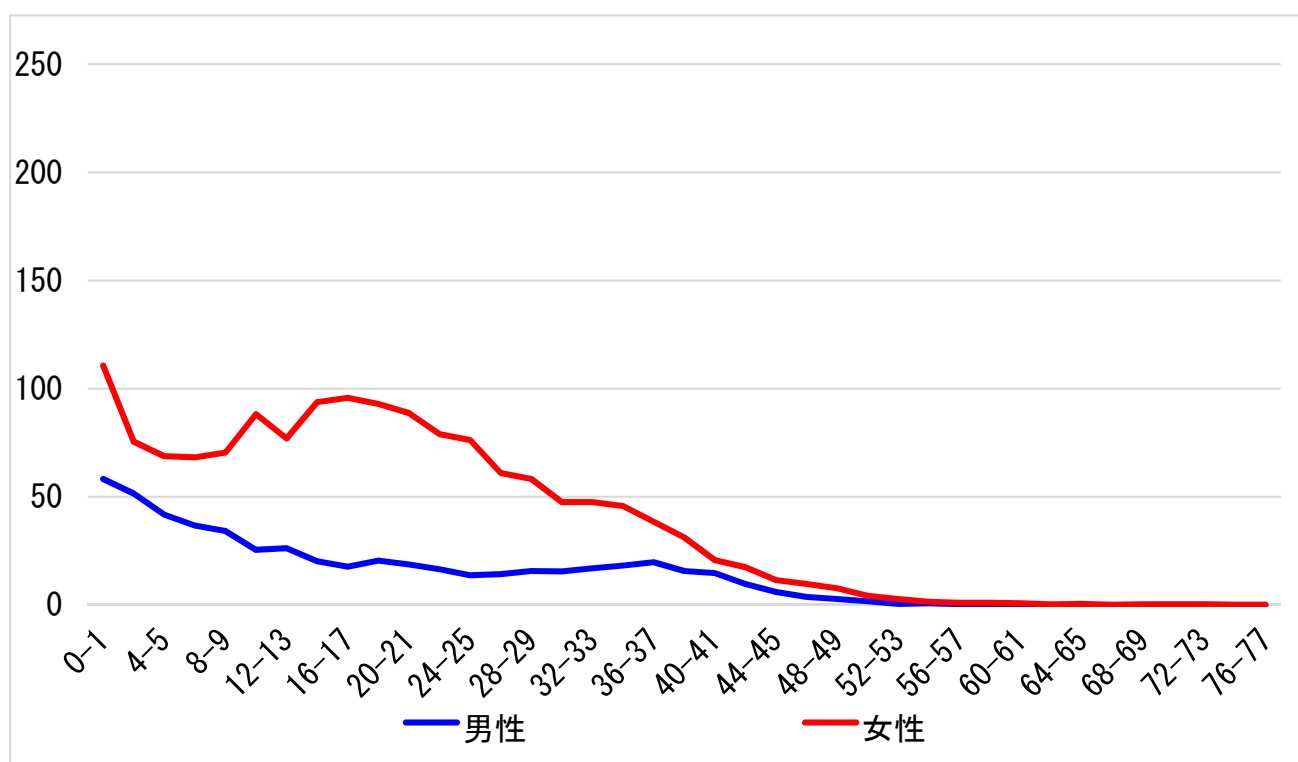


図 3. 薬局薬剤師から病院薬剤師に転職したときの経験年数と平均人数（2012 年以後）

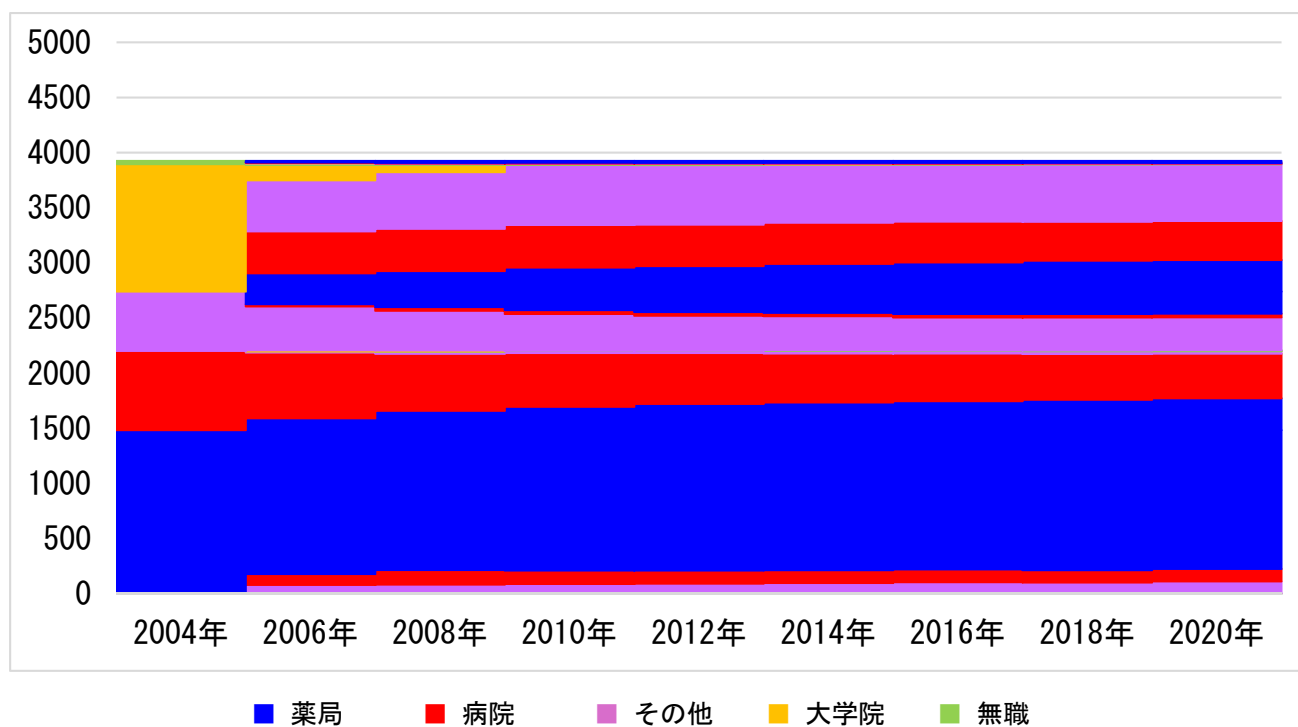


図 4. 2004 年に経験年数 2 年未満だった男性薬剤師が従事した業種の経年変化

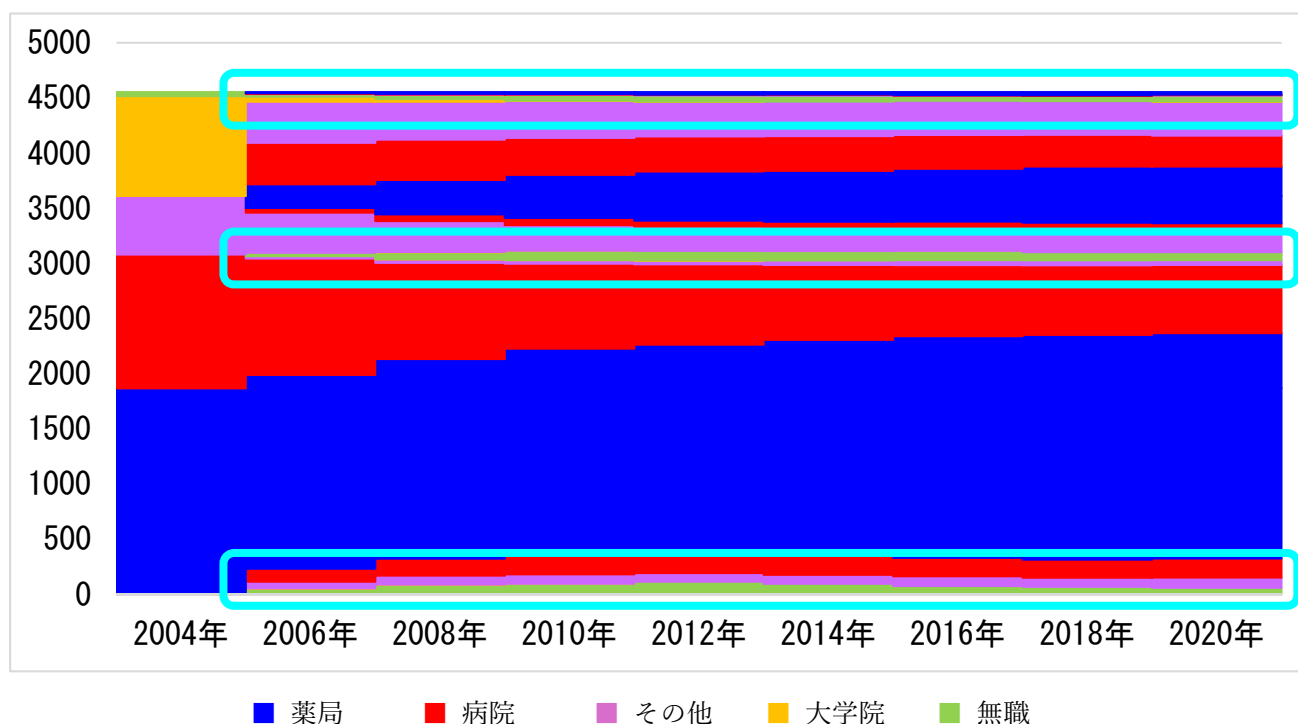


図 5. 2004 年に経験年数 2 年未満だった女性薬剤師が従事した業種の経年変化

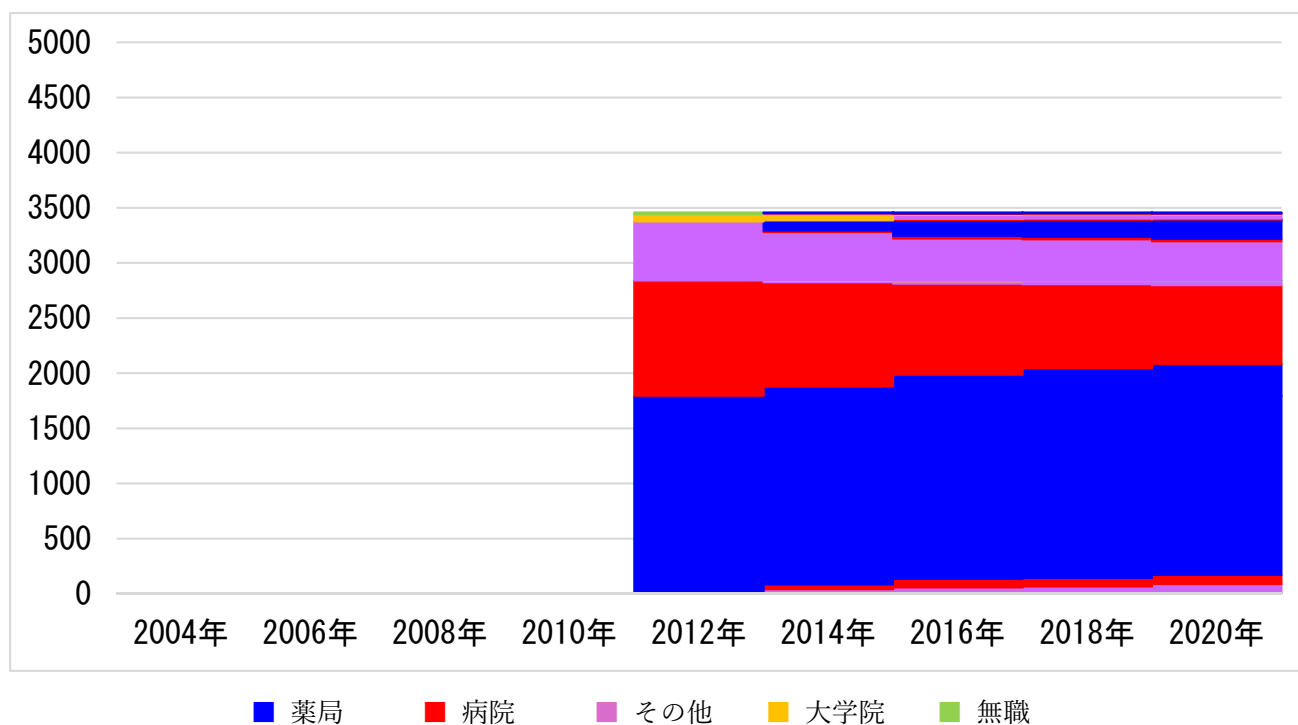


図 6. 2012 年に経験年数 2 年未満だった男性薬剤師が従事した業種の経年変化

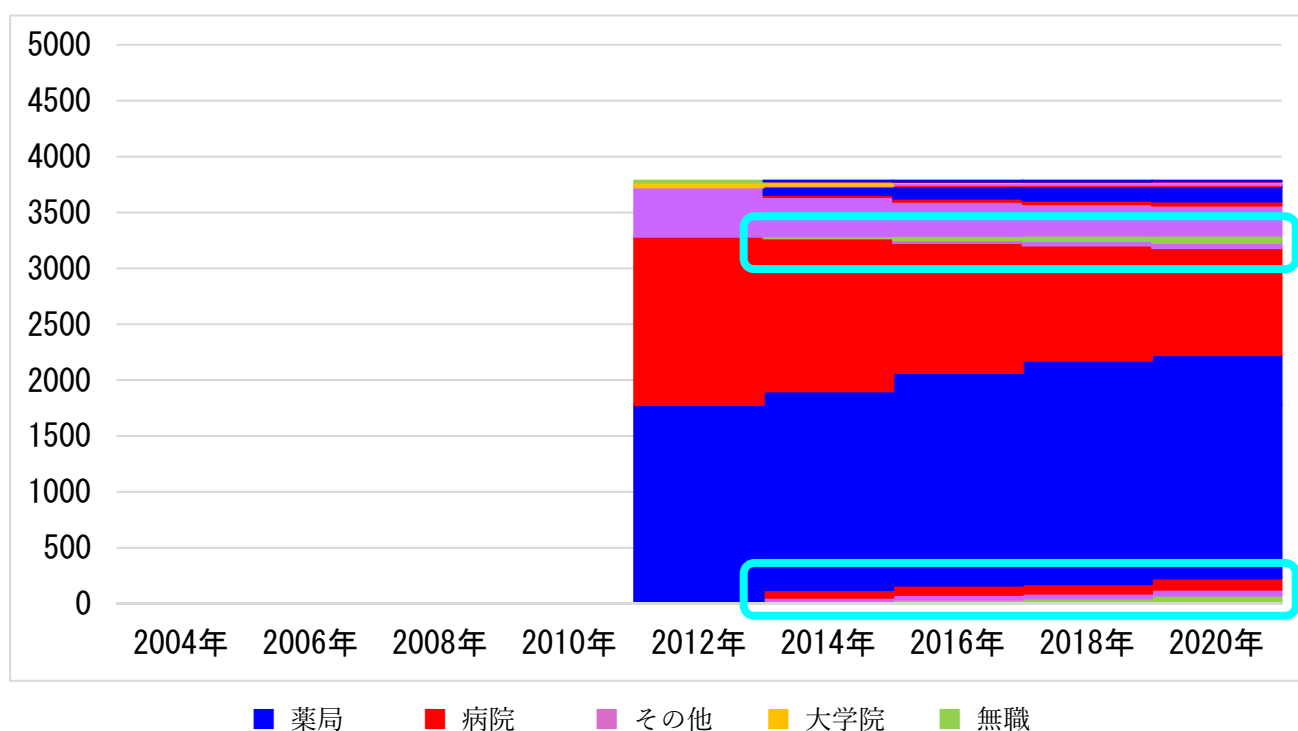


図 7. 2012 年に経験年数 2 年未満だった女性薬剤師が従事した業種の経年変化

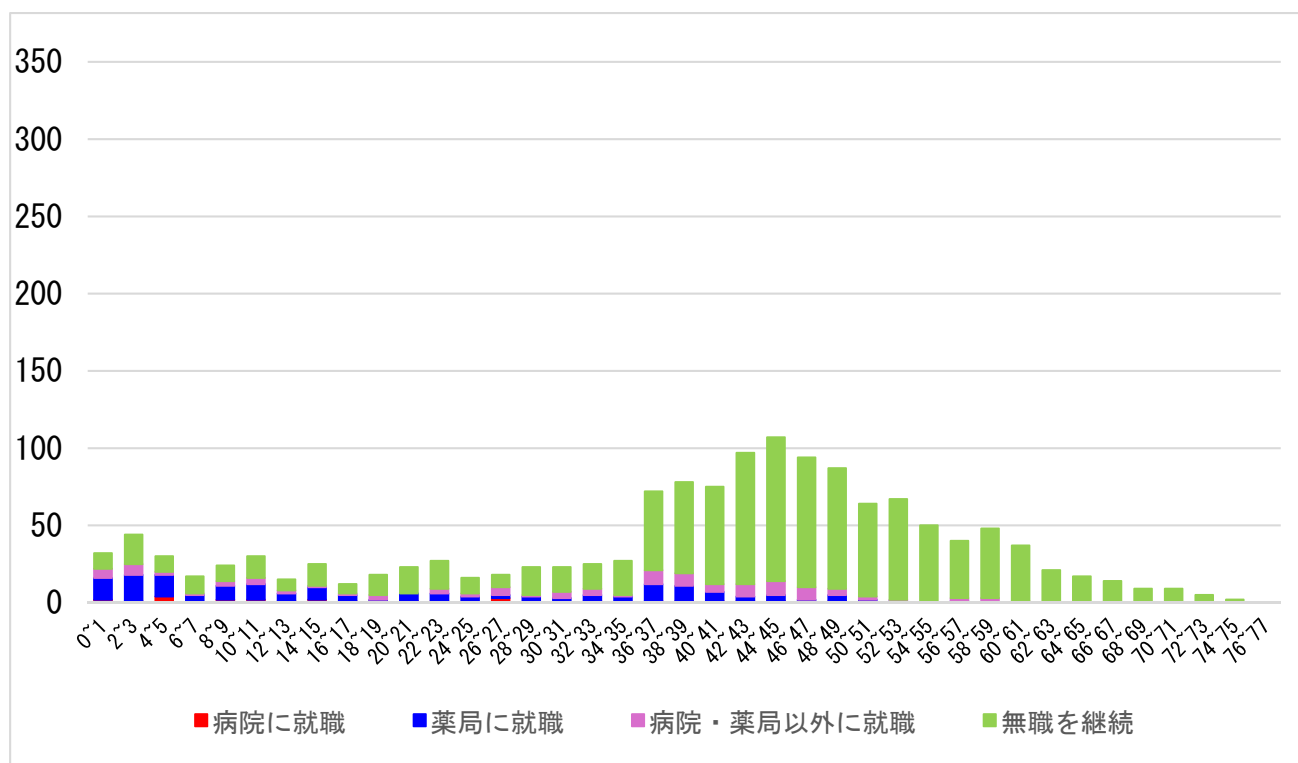


図 8. 2018 年に無職だった男性薬剤師の 2020 年における就業状況

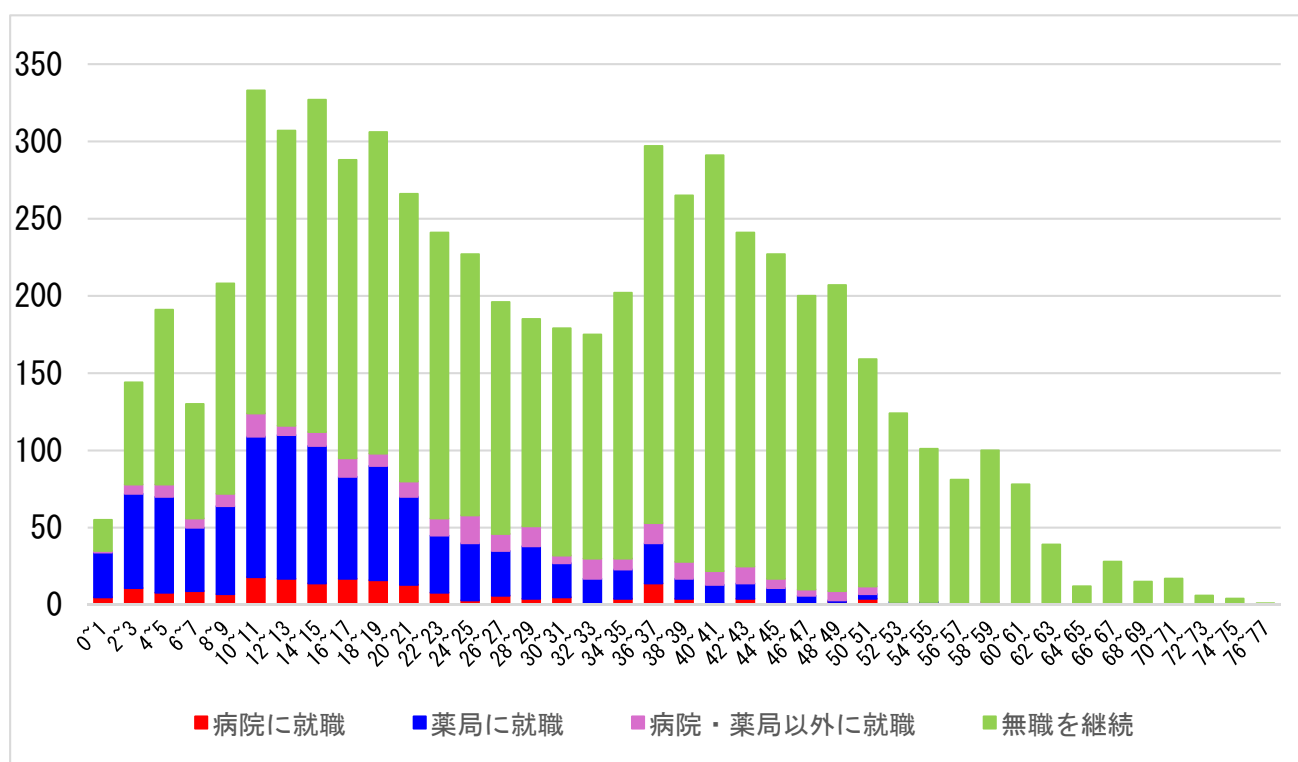


図 9. 2018 年に無職だった女性薬剤師の 2020 年における就業状況